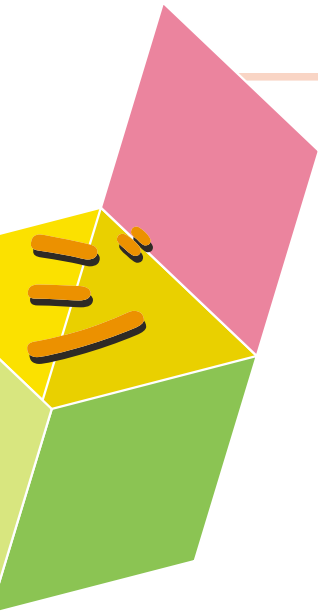


GALLERY ギャラリー



「つくばい」陶芸
堀井 光子さん(備中町平川)



「2005年の顔」編み物
藤田 睦子さん(中原町)



「夏のセーター」編み物
大西 百恵さん(横町)



「楽しい夏の作品」工作
上森 由晴くん、倉野 雄羽くん、中上 ひかるくん、
蓮井 ねねちゃん、中山 琉海ちゃん(有漢幼稚園の園児)

ミニ★ピクアズ



こんなモモが
採れました。

「黄金桃」
綱島 繁廣さん(有漢町上有漢)

「さくらんぼの鉢植」アート盆栽
柳井 悦子さん(成羽町下原)



作品の募集について

- 【文芸】短歌、俳句、川柳など
【作品】絵画、工芸品、町の風景写真など
- 自作の未発表作品で、一人一作品とします。
 - ギャラリーの作品については、その写真をお送りください。
(撮影が困難な場合は、ご連絡ください)
 - 住所・氏名・電話番号・作品の場合はタイトルを明記のうえ、お送りください。
- ※締め切り掲載号の前日の末日(必着)

- 【送り先】〒716-8501(住所不要)
高梁市役所企画課公聴広報係
- ※応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※提供いただいた写真等は返却できません。
- 問い合わせ 企画課公聴広報係 ☎0210
Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp

市民のページ

備中っ子 「あいさつ標語」コンクール

備中っ子健全育成連絡協議会では、「あいさつ」を通して家庭や地域とのふれあいやつながりを大切にしてほしいと、「あいさつ標語」の募集を行いました。入賞者は次のとおりです。

【低学年の部】金賞

あいさつで こころはいつも さわやかに！
(敬称略)

おはようで はじまるきょうは にっこり！
谷本 満優(富家小1年)

あいさつを かわせばえがおが ふえてくる
平松 史枝(富家小1年)

あいさつで みんなほかほか いいきもち
物部 怜児(平川小2年)

【高学年の部】金賞

「おはよう」「ありがとう」「ふつうに言える備中っ子」
小林 孝志(湯野小4年)

心と心 つなぐ言葉は あいさつから
村上和香奈(湯野小5年)

あいさつで 広げよう 地域の和
小川 一誠(富家小6年)

【中学校の部】金賞

おはようと 元気に声かけ 笑顔かけ
立川ゆかり(備中1年)

あいさつは 心と心を つなぐ橋
井上貴美英(備中2年)

あいさつは ふれあう知り合う 第一歩
竹並 正直(備中2年)

※なお、今月送られてきた「文芸たかはし」の作品で今回掲載できなかったものについては、来月号に掲載します。ご了承ください。

地名をよるし

十一、臘数

川上町に「臘数」(臘数)という大字地名があります。漢字も大変難しい字で「臘」という字に「数」の字を組み合わせて「しわす」と読ませる珍しい地名の一つであります。

「臘数」は成羽川の支流、領家川の右岸にあつて成羽町の高丸山(五四一メートル)と鶴ノ森山(四八〇メートル)の西側、海拔一〇〇〜二五〇メートルの谷筋に位置していて、臘数と郷の集落が点在しています。領家川を北東に下つた成羽川との合流地点には東町(川合)の集落があります。

「臘数」の地名が最初に見られるのは、戦国時代の文亀三年(一五〇三)成羽八幡神社の神田検地が三村家親によつて行われた時の記録(成羽八幡神社旧記)「岡山県古文書集」に「臘数村の渡部三郎左衛門(三村氏の被官)抱分」として「北ノ坊ノまへ、田一反半、しわす山王神田、上分米壺石八斗」などと記録があり「臘数村」が出て来ます。この頃村の氏神は成羽八幡神社だつたことが分かります。

また、前掲書の「成羽之荘六ヶ村末社定り之事」(大永一五二二〜二八八)の頃、八幡宮内の山王宮を「臘数」に勧請したことが書かれ、天竜寺の荘園だつた成羽荘の各村は、八幡宮の末社を勧請したのでした。

近世になると川上郡に属し、毛利氏の支配から慶長五年(一六〇〇)幕府領となり、同九年から小田吉田村の旗本岡氏の所領、元和元年(一六一五)から小堀氏の支配、寛永一五年(一六三八)松山藩領(池田氏が番)、そして同一六年水谷氏の成羽藩領、同一九年再び幕府領、万治元年(一六五八)から旗本山崎氏の成羽藩領となり幕末を迎えています。寛永一五年頃の「寛永備中国絵図」(岡山大図書館)には「志わす村」、村高一五五石余と記され「正保郷帳」(正保二・三年頃)一六四五〜四六にも一五五石余り、枝村として星原が書かれています。

幕末になると「天保郷帳」(天保五年一八三四)に二二九九



石余と記録され村高が増加しています。万延元年(一八六〇)頃の「備中村鑑」には、一七二石余と減少し、慶応く明治四年(一八七二)頃の「旧高旧領取調帳」には再び増加して二四五石余となつています。これまで枝村であつた星原は明治二二年に分かれて東成羽村大字星原となり、「臘数村」の本村(臘数・郷)は手荘村となり大字「臘数」となつていきます。現在、本村(臘数・郷)の産土神は日吉神社で、前身は中世の山王宮(日吉山王権現)で成羽藩主山崎堯治三代(代)が領内鎮護のために祀つたといわれ、大山祇命を祭神とした神社であります。付近には今でも山王峠とか王子の迫など地名が残つています。また、成羽町星原から山すそを通り「臘数」を抜ける東城への道が明治頃までありましたが、今は利用する人も少なく昔をしのぶだけになつています。

「臘数」は難読地名の代表的なもので、由来ははっきりしません。「臘」は「字通」(平凡社)によると「ろう」と読み「まつり」とか「年の暮れ」という意味で、冬至後に歳を送る祭りを意味し、年末のことをいう。また、陰暦一二月のことで臘月のことなどと説明しています。

天保六年(一八三五)の「備中国巡覧大絵図」には、川上郡に「臘月」と表記して「しわす」と仮名をつけています。これが本来の文字だとすると「師走」(二月)にちなんだ意味で付けられた地名がいつの時代にか「月」が「数」に変化したのかも知れません。また、その逆で「数」が「月」に変わったことも考えられるのです。

もう一つの意味は「しわ・す」という「しわ」(臘・志和など)は、皺が寄つたような地形・曲がつた地形などの意(「地名用語語源辞典」)なのでしようか、とにかく地名は歴史を語ってくれる大変面白いものなのです。(文・松前俊洋さん)



領家川対岸からみた臘数遠景